



愛媛県宇和海より得られたスミツキアマダイ

清水孝昭¹・榎 浩樹¹・加藤利弘²・平松 亘³

Author & Article Info

¹ 愛媛県農林水産研究所水産研究センター栽培資源研究所 (伊予市)

TS: simizu-t@sky.hi-ho.ne.jp (corresponding author)

² 愛媛県農林水産研究所水産研究センター (宇和島市)³ (宇和島市)

Received 11 July 2025

Revised 16 July 2025

Accepted 19 July 2025

Published 22 July 2025

DOI 10.34583/ichthy.57.0_15

Takaaki Shimizu, Hiroki Maki, Toshihiro Katoh and Wataru Hiramatsu. 2025. Record of a tilefish *Branchiostegus argentatus* (Cuvier, 1830) from Uwa Sea, Ehime Prefecture, Japan. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 57: 15–19.

Abstract

An adult specimen (300.4 mm standard length) of a tilefish, *Branchiostegus argentatus* (Cuvier, 1830) (Perciformes: Branchiostegidae), was collected in the area surrounding Cape Sada and Uwajima City in northern Uwa Sea, Ehime Prefecture, Japan by longline fishing on May 16, 2025. This specimen represents the first documented records of the species in the Uwa Sea and from the coastal region of the Japanese mainland, accompanied by a registered specimen (BSKU 138619). It also exhibited a maximum body size (369 mm total length) compared with previously documented reports of the species.

スズキ目アマダイ科魚類はアマダイ属 *Branchiostegus* Rafinesque, 1815, *Caulolatilus* Gill, 1862, および *Lopholatilus* Goode and Bean, 1879 の 3 属から構成されており, 日本にはアマダイ属のみが分布する (Dooley, 1978, 1999; 藍澤・土居内, 2013). アマダイ属の 16 有効種のうち, 日本列島からはアカアマダイ *Branchiostegus japonicus* (Houttuyn, 1782), シロアマダイ *Branchiostegus albus* Dooley, 1978, キアマダイ *Branchiostegus auratus* (Kishinouye, 1907), ハナアマダイ *Branchiostegus okinawaensis* Hiramatsu and Yoshino, 2012, およびスミツキアマダイ *Branchiostegus argentatus* (Cuvier, 1830) の 5 種が知られ, 愛媛県からは前 3 種が報告されている (辻・平松, 1987; 高木ほか, 2010; 藍澤・土居内, 2013; Huang et al., 2025).

2025 年 5 月に, 四国南西部に位置する愛媛県宇和海に

おいて, スミツキアマダイの成魚 1 個体が延縄漁により漁獲され, 同県八幡浜市水産物地方卸売市場へ持ち込まれた. これは愛媛県における本種の初記録であるとともに, 産地情報が明らかな標本に基づく日本列島本土からの初めての報告となる. 加えて, 得られた個体の体サイズはこれまで報告されているいずれよりも大きいことから, 知見の少ない本種の分布および生態に関する有益な情報と考えられるため, 登録標本に基づきここに報告する.

材料と方法

記載標本は生鮮時に写真撮影を行ったのち, 将来的な分子解析のため右体側の胸鰭先端を切除して 99.5% エタノールで保存した. 魚体は 10% ホルマリン水溶液で固定し, 体各部の計数・計測後に高知大学理工学部海洋生物学研究室 (BSKU) に登録, 保管した. 調査標本の計数・計測方法は Hubbs and Lagler (1958) と Hiramatsu and Yoshino (2012) に準拠し, アマダイ属各種の学名は Huang et al. (2025) にそれぞれしたがった. 体各部の計測は, 全長は測定板により 1 mm の精度で, それ以外はノギスを用いて 0.1 mm の精度で行った. 標準体長 (standard length) は体長または SL, 全長 (total length) は TL と表記した. 胸鰭, 腹鰭, および鱗の計数は標本の左体側で行い, 鰓耙数 (gill raker) は右体側の第 1 鰓弓で計数した.

Branchiostegus argentatus* (Cuvier, 1830)*スミツキアマダイ**

(Figs. 1, 2; Table 1)

標本 BSKU 138619, 369 mm TL, 300.4 mm SL, 2025 年 5 月 16 日 (日付は市場への上場日であり, 実際の漁獲日は 1 日程度前日の可能性がある), 愛媛県宇和海北部沿岸 (佐田岬半島から宇和島市にかけての海域), 延縄.

記載 計数形質と体各部の体長に対する割合を Table 1 に示した. 体は延長し, 側偏する. 体長は頭長の 3.90 倍, 体高の 3.90 倍, 背鰭前方長の 3.47 倍, 臀鰭前方長の 1.82



Fig. 1. *Branchiostegus argentatus* from the Uwa Sea, Ehime Prefecture, Japan (BSKU 138619, 300.4 mm SL, flesh specimen, photo by T. Shimizu).

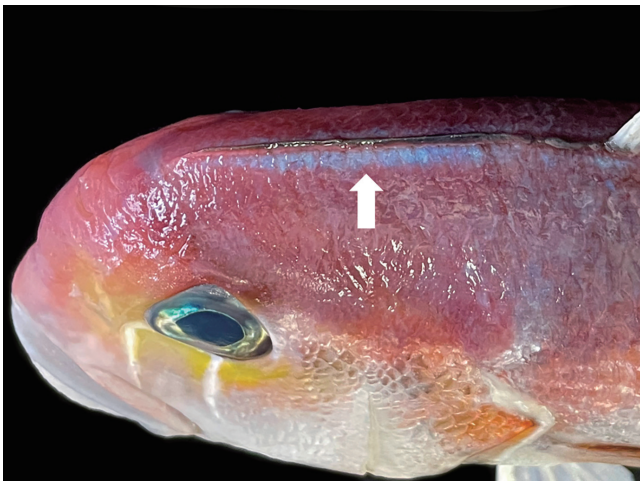


Fig. 2. Dorsolateral view of the head in *Branchiostegus argentatus* (BSKU 138619, 300.4 mm SL, flesh specimen, photo by T. Shimizu). A white arrow indicates a pale blue streak along the left side of a medial dark ridge.

倍, 肛門前方長の 1.95 倍。頭長は体高の 1.00 倍, 吻長の 2.70 倍, 上顎長の 2.35 倍, 眼径の 4.55 倍, 両眼間隔の 3.31 倍, 尾柄長の 1.72 倍, 尾柄高の 2.33 倍, 胸鰭長の 1.11 倍。口は下方にあり端位。上顎後端は眼窩中央の垂直下に達する。頬部は鱗に覆われ, それらは皮下に埋没せず明瞭。眼径は頬部最大鱗長の 2.86 倍。背鰭と臀鰭基底は長く, いずれも棘と軟条は連続して縁辺は窪まない。尾鰭は大きく二重湾入形。頭頂部から背鰭始部にかけて 1 隆起縁がある。背鰭第 1 棘は眼径の 1.50 倍, 第 2 棘は同 2.19 倍で, 最長は第 4 棘 (同 2.24 倍)。胸鰭は第 7 軟条 (眼径の 3.85 倍) が第 8 軟条 (同 2.72 倍) より長い。腹鰭長 (眼径の 2.62 倍) は背鰭最長軟条長 (同 2.24 倍) より短い。腹鰭軟条は第 2 軟条 (眼径の 2.57 倍) が最長で, 第 3 軟条は眼径の 2.37 倍。

色彩 生鮮時の色彩 (Figs. 1, 2): 体背面は暗い桃色, 体側面はやや淡い桃色で, 腹部は白みがかった桃色。頭頂部の隆起縁は濃いオリーブ色で, 隆起縁基部左右にそれ

ぞれ 1 本の淡青色の帯がある。眼窩前方および下方は淡い黄色。眼窩前縁と下部中央から上顎へ向かう各 1 本の細い銀白色横線がある。主鰓蓋骨後縁突出部は朱色味を帯びる。体側に 3 本の淡黄色縦帯があり, 縦帯間は淡青色。背鰭は基底に沿って基部が淡桃色, 縁辺へ向かって淡い白色で, 各鰭膜に 1 黒斑があり, 第 1 軟条より後方の鰭膜で明瞭に大きい。胸鰭は中央部が暗灰色で縁辺は淡い白色, 上縁が黒色。腹鰭は広く淡灰色。臀鰭は基底に沿って基部が淡い白色, それより縁辺にかけて淡灰色。尾鰭は上縁が黒色, 上葉の上方が淡桃色, それより下部は淡灰色で, 上方から中央にかけて長短 7 本の淡黄色縦線がある。

分布 本種は国外では韓国南部 (釜山, 済州島), 中国沿岸および海南島からベトナム沿岸, シャム湾を含む南シナ海まで出現し, 南シナ海がおもな分布域とされる (Chabanaud, 1924; Herre, 1935; Kuroshima, 1961; Kim and Ryu, 1988; Moshin and Ambak, 1996; Matsuura et al., 2001; Kim et al., 2005; 山田ほか, 2007; Hiramatsu and Yoshino, 2012; Huang et al., 2025)。ただし, 中国沿岸の記録については, 種の同定に疑念が示されている (藍澤・土居内, 2013)。国内の分布は男女群島近海から台湾北部の大陸棚域, および山口県 (藍澤・土居内, 2013), 島根県 (後述), 高知県 (後述), 愛媛県宇和海 (本研究)。

備考 記載標本の各計数値は Yoshino et al. (1984) の示したスミツキアマダイの値に一致し, 体各部の比率もおおむね一致したこと, および頬部の鱗が明瞭であること, 眼窩前縁と中央下に銀白色の帯があること, 背鰭の各鰭膜に黒斑があること, 胸鰭と尾鰭の上縁が黒いことなどの外観的特徴が Yoshino et al. (1984), 山田ほか (2007), 藍澤・土居内 (2013) などの記述と一致したことから本種と同定した。

本種は頭が小さく体長の 3.9 倍, 体高が低く体長の 3.9 倍, 頬の鱗は皮下に埋没せず, 鱗列が 7 以上, 背鰭棘数が 7,

背鰭軟条数が 15、背鰭第 1 棘は長く、眼径の 1.5 倍、背鰭最長軟条は腹鰭より長い、腹鰭軟条は第 2 軟条が最も長い、体側に 3 本の淡黄色縦帯があり、縦帯間は淡青色（固定後は暗色の縦帯）、体側に暗色横帯がない、背鰭基底部に淡桃色で各鰭膜に連続する 1 黒斑がある、眼窩下部に明瞭な 2 本の銀白色の帯がある、上顎後端が眼窩中央の垂直下に達する、尾鰭上葉に 7 本の黄色帯があり、下葉は淡灰色であるなどの特徴でアマダイ属の他の有効種すべてと区別される（Yoshino et al., 1984; Hiramatsu et al., 2019; Huang et

al., 2025）。また、天野（2007）のアマダイ科の一種、山田ほか（1998, 2007）のスミツキアマダイとアカアマダイの交雑個体、山田ほか（2000, 2007）のシロアマダイとアカアマダイの交雑個体、および山下ほか（2013）のアカアマダイとキアマダイの交雑個体のいずれとも識別できる。なお、本種の体側斑紋として 3 条の黄色と 2 条の褐色縦帯があるとされるが（山田ほか, 2007）、黄色縦帯の間を走る縦帯は生鮮時には淡青色であり（Fig. 1）、ホルマリン固定後には直ちに消失して体側の色と同じ淡桃色となることを確認した。加えて、生鮮時には頭頂部の隆起縁基部左右に淡青色の帯があることが新たに判明した（Fig. 2）。

本種は比較的小型の種とされ（山田ほか, 1986）、これまで報告された本種の標本の体サイズ（各最大値）は、全長 30.2 cm（山田ほか, 2007）、体長 206.0 mm（Hiramatsu and Yoshino, 2012）、体長 272.9 mm（Yoshino et al., 1984）、体長 283 mm（林, 1985）、体長 173.7 mm（Kim and Ryu, 1998）、体長 26 cm（Xiong et al., 2017）、体長 263.7 mm（Huang et al., 2025）、そして体長 25 cm（Dooley, 1999）である。したがって、今回得られた標本（全長 369 mm、体長 300 mm）はこれまで知られる本種の最大サイズとなる可能性がある。

林（1985）は山口県の遠洋延縄漁船が 1980 年に東シナ海台湾北部で漁獲したアマダイ類の中から、当時日本産として知られていたシロアマダイ、アカアマダイ、キアマダイの 3 種と区別される不明種の存在を報告した。不明種の特徴として背鰭の黒色斑紋列、頬部の 2 本の銀白色線、体側上部の 2 本の暗色縦線などが挙げられており、山田ほか（2007）によりスミツキアマダイとされている。Yoshino et al. (1984) は東シナ海北部産の 14 個体を基に *B. argentatus* を日本から記録し、新和名（new Japanese name）として Sumitsuki-amadai を提唱し、その分布域に台湾北部を含めた。荒賀（1984）は同様に *B. argentatus* に対してスミツキアマダイ（新称）と表記し、分布域を東シナ海から南シナ海とした。また、山田ほか（1986, 2007）はおもに東シナ海、黄海における以西底びき網漁業、大中型まき網漁業、調査船によるトロール操業などの漁獲資料と登録標本に基づき、国内における本種の分布を男女群島近海から台湾北部の大陸棚域とした。

藍澤・土居内（2013）は上記以外の国内における本種の分布域として山口県日本海沿岸を含めている。しかし、山口県日本海側における本種の記録は目録によるもので（河野ほか, 2011, 2014）、標本に基づく記録ではない（園山ほか, 2020）。山口県では 2000 年頃まで遠洋延縄漁が東シナ海でおこなわれ（山口県, 2006）、上述のとおり本種が漁獲されていたことから（林, 1985）、山口県の記録はこれに該当する可能性がある。また、島根県から生鮮写真とともに本種の記録があり（島根県水産技術センター、

Table 1. Measurements and counts of *Branchiostegus argentatus* from Ehime Prefecture, Japan (BSKU 138619).

Total length (mm)	369
Standard length (mm)	300.4
Measurements (% of SL)	
Body depth	25.6
Head length	25.6
Head depth	24.9
Snout length	9.5
Length of snout to dorsal-fin origin	28.8
Length of snout to anal-fin origin	54.9
Length of snout to pectoral-fin origin	25.0
Length of snout to pelvic-fin origin	26.4
Length of snout to anus	51.3
Orbit diameter	5.6
Cheek-scale length	2.0
Upper jaw length	10.9
Interorbital width	7.7
Suborbital depth	6.2
Dorsal-fin base length	62.2
First dorsal-fin spine length	8.4
Second dorsal-fin spine length	12.4
Longest dorsal-fin spine length	12.6
First dorsal-fin soft ray length	12.6
Longest dorsal-fin soft ray length	18.0
Anal-fin base length	34.6
First anal-fin spine length	3.1
Second anal-fin spine length	8.4
Longest anal-fin soft ray length	14.1
Pectoral-fin length	23.0
7th pectoral-fin soft ray length	21.7
8th pectoral fin soft ray length	15.3
Pelvic-fin length	14.7
Pelvic-fin spine length	7.8
First pelvic-fin soft ray length	10.5
Second pelvic-fin soft ray length	14.4
Third pelvic-fin soft ray length	13.3
Caudal peduncle length	14.9
Caudal peduncle depth	11.0
Counts	
Dorsal-fin rays	VII, 15
Pectoral-fin rays	17
Pelvic-fin rays	I, 5
Anal-fin rays	II, 12
Gill rakers	7 + 13
Cheek scale rows	8
Pored lateral-line scale rows	45
Longitudinal scale rows	73
Scales above lateral line	6
Scales below lateral line	16



Fig. 3. *Branchiostegus argentatus* collected from off Kochi Prefecture, Japan (both images are the same individual; photo by M. Fujiwara).

2008), 画像から本種の可能性がある。これは大田市の漁業協同組合久手出張所から提供された情報であり、2008年に延縄で得られたものとされるが、詳細な漁獲地点や標本の有無については記述されていない。産地の都道府県名を明示して国内の博物館に収蔵されている標本としては、高知県で得られた個体が国立科学博物館に登録されているが (NSMT-P 110284:サイエンスミュージアムネット [URL](#), 2025 年 5 月 19 日参照), これは高知市内の市場で得られたもので、採集地点の情報は不明である。また、高知県では他にウェブサイトで 1 例の確認記録があり [スミツキアマダイ (旧ページ) 市場魚貝類図鑑 [URL](#), 2025 年 6 月 10 日参照], この件についてサイト制作者に尋ねたところ、写真の個体は 2003 年に高知市沖合で採集されたもので、未計測ながら全長は 20 cm 程度と推測され、標本は現存していない (藤原昌高氏, 私信)。なお、この個体は眼下の 2 本の横線や背鰭各鰭膜の黒斑の特徴から、スミツキアマダイと同定される (Fig. 3)。以上のことから、本報告は登録標本の記述に基づく日本列島本土沿岸からの本種の確実な出現記録といえる。

本種が漁獲された宇和海北部沿岸には水深 70–80 m の砂泥域が広がり、おもに延縄漁業によりシロアマダイとアカアマダイが漁獲されている。本属魚類は上記のように種間雑種が出現し、当該海域でも聞き取りによれば外観上シ

ロアマダイとアカアマダイのいずれにもあてはまらない個体が時折漁獲されるが、それらは総じて雑種と認識されているため、今回以前にスミツキアマダイの特徴を有した個体が漁獲されていたかどうかは不明である。

謝 辞

記載標本の入手に便宜を図っていただいた八幡浜漁業協同組合に深謝する。また、高知県における本種の分布に関して貴重な情報と写真を提供していただいた東京都の藤原昌高氏ならびに、本稿の改訂への助言と標本を登録・保管していただいた高知大学の遠藤広光教授に感謝の意を表する。

引用文献

- 藍澤正宏・土居内龍. 2013. アマダイ科, pp. 867–868, 1987. 中坊徹次 (編) 日本産魚類検索 全種の同定. 第 3 版. 東海大学出版会, 秦野.
- 天野千絵. 2007. 対馬海峡東水道で漁獲された白いアマダイ科の 1 種について. 山口県水産研究センター研究報告, 5: 35–39.
- 荒賀忠一. 1984. スミツキアマダイ (新称), p. 147, pl. 134. 益田 一・尼岡邦夫・荒賀忠一・上野輝彌・吉野哲夫 (編) 日本産魚類大図鑑. 東海大学出版会, 東京.
- Chabanaud, P. 1924. Descriptions d'une espece nouvelle et d'une forme supposee nouvelle de poissons de mer de la cote d'Annam. Bulletin du Museum National d'Histoire Naturelle (Serie 1), 30: 357–363.

- Dooley, J. K. 1978. Systematics and biology of the tilefishes (Perciformes: Branchiostegidae and Malacanthidae), with descriptions of two new species. National Oceanography and Atmospheric Administration Technical Report National Marine Fisheries Service Circular, 411: 1–2, 30–47.
- Dooley, J. K. 1999. Family Malacanthidae, pp. 2630–2648. In Carpenter, K. E. and Niem, V. H. (eds.) FAO species identification guide for fishery purposes. The living marine resources of the western central Pacific. Vol. 4. Bony fishes, part 2 (Mugilidae to Carangidae). FAO, Rome.
- 林 奉行. 1985. 東シナ海産アカアマダイの漁業生物学的研究. 山口県外海水産試験場研究報告, 20: 1–95.
- Herre, A. W. C. T. 1935. Notes on fishes in the Zoological Museum of Stanford University. VI. New and rare Hong Kong fishes obtained in 1934. Hong Kong Naturalist, 6: 285–293.
- Hiramatsu, W., C. T. Vinh and H. Endo. 2019. *Branchiostegus biendong*, a new tilefish from Vietnam (Perciformes: Branchiostegidae). Zootaxa, 4661: 133–144.
- Hiramatsu, W. and T. Yoshino. 2012. A new tilefish, *Branchiostegus okinaensis* (Perciformes: Branchiostegidae), from Okinawa Island, southern Japan. Bulletin of the National Museum of Nature and Science, Series A, Zoology, Supplement, 6: 41–49.
- Huang, H., J. Chen, Z. Ke and C. Zhang. 2025. *Branchiostegus sanae*, a new species of deepwater tilefish (Eupercaria, Branchiostegidae) from the South China Sea. ZooKeys, 1227: 129–142.
- Hubbs, C. L. and K. F. Lagler. 1958. Fishes of the Great Lakes region. Revised edition. Cranbrook Institute of Science Bulletin, 26: i–xi + 1–213, pls. 1–44.
- Kim, Y. U. and J. W. Ryu. 1998. Taxonomic revision of the genus *Branchiostegus* (Perciformes, Pisces) from the adjacent waters of Korea. Korean Journal of Ichthyology, 10: 40–48.
- Kim, I. S., Y. Choi, C. L. Lee, Y. J. Lee, B. J. Kim and J. H. Kim. 2005. Illustrated book of Korean fishes. Kyohak Publishing, Seoul. 615 pp.
- 河野光久・土井啓行・堀 成夫. 2011. 山口県日本海産魚類目録. 山口県水産研究センター研究報告, 9: 29–64.
- 河野光久・三宅博哉・星野 昇・伊藤欣吾・山中智之・甲本亮太・忠鉢孝明・安澤 弥・池田 伶・大慶則之・木下仁徳・児玉昇治・手賀太郎・山崎 淳・森 俊朗・長瀨達章・大谷徹也・山田英明・村山達朗・安藤朗彦・甲斐修也・土井啓行・杉山秀樹・飯田新二・船木信一. 2014. 日本海産魚類目録. 山口県水産研究センター研究報告, 11: 1–30.
- Kurunuma, K. 1961. A check list of fishes of Vietnam. Division of Agriculture and Natural Resources, United States Operations Mission to Vietnam, Saigon. 66 pp.
- Matsuura, K., K. Shibukawa, G. Shinohara and J. Liu. 2001. Fishes collected from the shallow waters of Hainan Island, South China Sea. National Science Museum Monographs, 21: 101–126.
- Mohsin, A. K. M. and M. A. Ambak. 1996. Marine fishes and fisheries of Malaysia and neighboring countries. University Pertanian Malaysia Press, Serdang. xxxvi + 744 pp.
- 島根県水産技術センター. 2008. 島根県水産技術センター, トビウオ通信 号外 とびくす, 39: 1–4.
- 園山貴之・荻本啓介・堀 成夫・内田喜隆・河野光久. 2020. 証拠標本および画像に基づく山口県日本海産魚類目録. 鹿児島大学総合研究博物館研究報告, 11: 1–152.
- 高木基裕・平田智法・平田しおり・中田 親. 2010. えひめ愛南お魚図鑑. 愛南町, 愛南. 250 pp.
- 辻 幸一・平松 亘. 1987. 宇和海産魚類目録—II. 南予生物, 2: 1–15.
- Xiong, W., M. R. Yi, C. X. Zhao, J. Y. Wu, X. Y. Ma, Z. L. Li and Y. R. Yan. 2017. Length–weight relationships of three fish species from the South China Sea. Journal of Applied Ichthyology, 33: 846–847.
- 山田梅芳・堀川博史・山下秀幸. 1998. スミツキアマダイ×アカアマダイ? *Branchiostegus argentatus* × *B. japonicus*? 西海区水研ニュース, 95: 1.
- 山田梅芳・堀川博史・山下秀幸. 2000. シロアマダイ×アカアマダイ? *Branchiostegus albus* × *B. japonicus*? 西海区水研ニュース, 100: 1.
- 山田梅芳・田川 勝・岸田周三・本城康至. 1986. 東シナ海・黄海のさかな. 西海区水産研究所, 長崎. xxvi + 502 pp.
- 山田梅芳・時村宗春・堀川博史・中坊徹次. 2007. 東シナ海・黄海の魚類誌. 東海大学出版会, 秦野. 1340 pp.
- 山口県. 2006. 山口県日本海海域あまだい類資源回復計画. 山口県, 山口. 2 + 7 pp.
- 山下秀幸・柳本 卓・酒井 猛・矢野綾子・東海 正. 2013. 長崎と大分の市場に水揚げされたアカアマダイとキアマダイの交雑個体. 日本水産学会誌, 79: 804–812.
- Yoshino T., W. Hiramatsu, O. Tabeta and Y. Hayashi. 1984. First record of the tilefish, *Branchiostegus argentatus* (Cuvier) from Japanese waters, with a discussion on the validity of *B. auratus* (Kishinouye). Galaxea, 3: 145–151.